

# OBに対するアンケートからみる部活動活性化策

自転車競技専門部

村山農業高等学校

小松 吉友

## 1. はじめに<研究の目的>

今年度の県内自転車競技部員数は、12名と少なく、ここ数年20名に満たない部員数で推移している。本校でも部員数の減少は著しく、今年度の部員は4名である。それに同時にここ数年間のインターハイや国体での入賞者の数も激減していて、昨年度・今年度の県内の入賞者はゼロであり、本校ではインターハイ出場もこの2年間逃している。県内各校とも部員数の減少と競技レベルの低下が喫緊の課題となっており、競技力向上策の1つとして、来年度からは、月1回以上の合同練習を行う予定であり、その成果が期待されている。さらに、ある程度の部員数を確保することによって、お互いの動機付けが高まり、競技力の強化が図られることにつながるものと考えられる。

しかし、部員数の増加については、いろいろな方法で部員の勧誘に努めているが、なかなか成果がみられないのが現状である。その中で、現部員がそれぞれの出身中学校に出向いて勧誘するなど、先輩からの働きかけが大きな力になっているように思われる。また、競技経験者である卒業生やその知人からの働きかけも1つの入部動機になっているようである。

そこで、入部の動機に、現部員であれ、競技経験者やその知人であれ、自転車競技のおもしろさ・魅力を知っている人からのからの勧誘があるとすれば、そのような人を増やすことが、部員増加策の一つとして大きな意味を持つてくるのではないかと考え、本校OBに対して部活動に対する満足度などをアンケートによって検証しながら、いままでの部活動指導を振り返るとともに、今後の部活動活性化策や部員確保に向けた取り組みについて研究していくこととした。

## 2. 研究の方法<研究の手順>

- (1)調査対象 : 本校自転車競技部OB(96名)
- (2)調査方法 : アンケートによる質問法
- (3)実施期間 : 平成21年7月～8月
- (4)調査内容 : 部活動の活動状況および意識、動機付けなどについて  
(具体的なアンケート内容については次に示す)

### <アンケート内容>

Q1. 自転車競技部に入部した理由を教えてください。(1つだけ選んでください。)

- 1. 先輩に誘われた。
- 2. 顧問の先生に誘われた。
- 3. 兄弟や知り合いが競技をしていた。
- 4. 中学の先生に進められた。
- 5. 自分からやりたいと思った。
- 6. その他(具体的に )

Q2. 在学中に進出もしくは入賞したもっとも上位の大会(高体連主催)を教えてください。

- 1. 県高校総体
- 2. 東北大会(インターハイ予選)
- 3. インターハイ
- 4. ツールド東北
- 5. 全国選抜大会

Q3. 在学中に進出もしくは入賞したもっとも上位の大会(高体連主催以外)を教えてください。

1. 県総体(国体予選)
2. 東北総体(ミニ国体)
3. 国民体育大会(国体)
4. 全国ジュニアロード
5. アジアおよび世界ジュニア大会

Q4. 部活動で一番苦勞したことは何ですか。(1つだけ選んでください。)

1. 練習が厳しい。
2. 遠征が多く大変。
3. 自転車・機材が高価。
4. その他(具体的に )

Q5. 部活動で思い出に残っていることは何ですか。(2つ選んでください。)

1. 全国大会等、上位の大会に出場し、他県にも仲間ができた。
2. 部活を通じて一生付き合っていける先輩・後輩などの仲間ができた。
3. 困難なことにもくじけない精神力が身についた。
4. 社会人として恥ずかしくない礼儀が身についた。
5. その他(具体的に )

Q6. 3年間の部活動を総括して、知り合いの人または後輩に自転車競技部への入部を勧めますか。

1. はい。
2. いいえ。
3. どちらともいえない。

Q7. Q. 6で答えた理由について2つ選んでください。

1. 全国大会に出場できるチャンスが多いから。
2. 遠征などが多く、いろいろな場所へいけるから。
3. 一生付き合える仲間ができるから。
4. 活動が充実していて、やりがいがあるから。
5. 自転車・機材が高価で出費がかさむ。
6. 遠征などが多く、出費がかさむ。
7. 落車等の危険があり、怪我をする機会が多いから。
8. 練習がきつく、ついていけない。
9. その他(具体的に )

Q8. あなたが3年間自転車競技をした経験をもとにして感じた自転車競技の魅力を自由に書いてください。

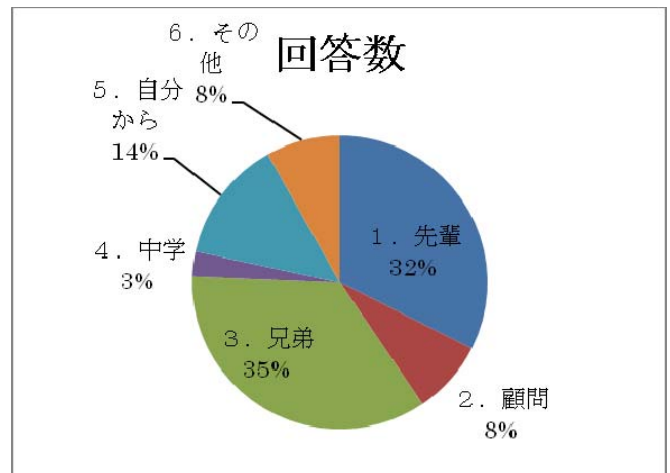
### 3. 結果と考察

#### (1) 結果

##### Q1 入部理由

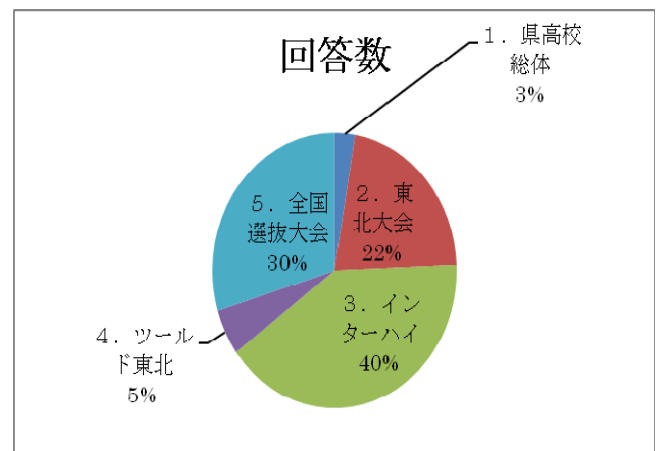
	回答数	%
1. 先輩	12	32%
2. 顧問	3	8%
3. 兄弟	13	35%
4. 中学	1	3%
5. 自分から	5	14%
6. その他	3	8%

その他…全国大会へ行きたい、インターハイに行きたい等



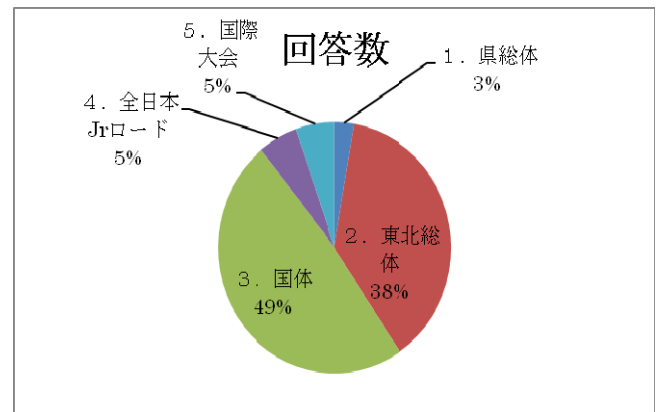
##### Q2 進出大会(高体連)

	回答数	%
1. 県高校総体	1	3%
2. 東北大会	8	22%
3. インターハイ	15	41%
4. ツールド東北	2	5%
5. 全国選抜大会	11	30%



##### Q3 進出大会(高体連以外)

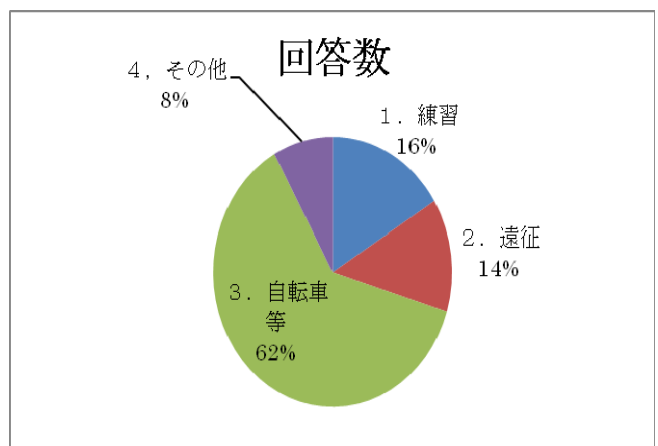
	回答数	%
1. 県総体	1	3%
2. 東北総体	14	38%
3. 国体	18	49%
4. 全日本 Jr ロード	2	5%
5. 国際大会	2	5%



##### Q4 苦勞したこと

	回答数	%
1. 練習	6	16%
2. 遠征	5	14%
3. 自転車等	23	62%
4. その他	3	8%

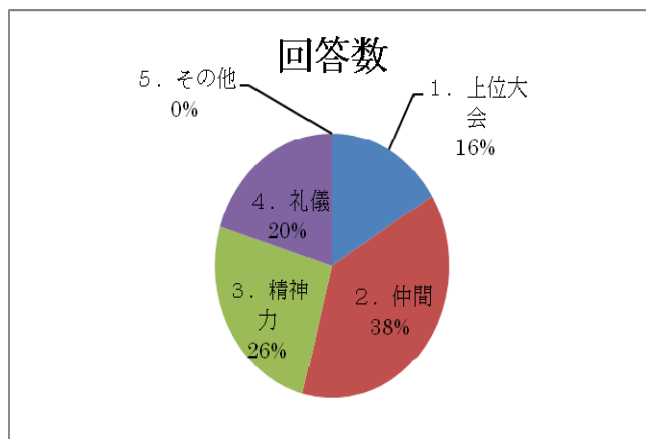
その他…先輩・顧問などとの人間関係



Q5 部活動での思い出

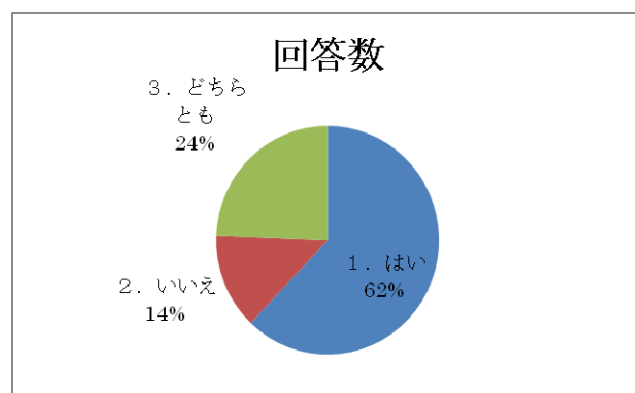
2つ回答

	回答数	%
1. 上位大会	12	32%
2. 仲間	28	76%
3. 精神力	19	51%
4. 礼儀	15	41%
5. その他	0	0%



Q6 入部を勧めるか

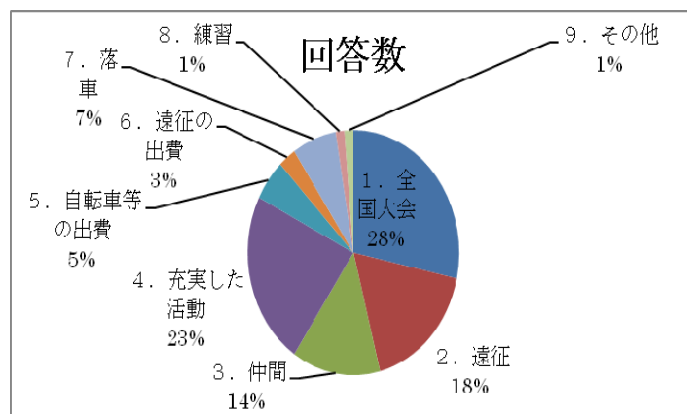
	回答数	%
1. はい	23	62%
2. いいえ	5	14%
3. どちらとも	9	24%



Q7 理由

2つ回答

	回答数	%
1. 全国大会	21	57%
2. 遠征	13	35%
3. 仲間	10	27%
4. 充実した活動	17	46%
5. 自転車等の出費	4	11%
6. 遠征の出費	2	5%
7. 落車	5	14%
8. 練習	1	3%
9. その他	1	3%



その他…プラス、マイナス両面あり判断できない

Q8 自転車競技の魅力

記録を更新したときの達成感、自分にあった種目を選べる、スピード感のある競技、走った後の爽快感、団体種目での一体感など

## (2) 考察

Q1より、部員の入部にあたっては、先輩からの勧誘や、競技経験者である兄弟・知人の影響が強いという結果（あわせて67%）であった。自転車競技のおもしろさを知っている人からの働きかけが効果があるようである。

部活動に対する満足度をみると、Q6より6割以上のOBが後輩に対して入部を勧めていることから、ある程度の満足感は得られているようである。このうちのすべてのOBが全国大会経験者であった（Q2およびQ3の結果より）。また、Q5および7にみられるように仲間とのつながりや精神力が身に着いたことなども満足感の大きな部分を占めていることがうかがえる。このように部活動の成果および精神面での成長がみられたOBほど満足度が高いことがうかがえる。

しかしながら、落車事故の危険性や自転車などの機材に対する出費があるにも関わらず、全国大会まで進めなかったOBでは、満足度はそれほどではなく、5人のOBは後輩に対して入部を勧めてはいない。

## 4. まとめ

今回のアンケート調査により、入部動機の大部分が競技経験者による勧誘であること、そして部活動に対する満足度を高めることが新入部員を増やすことにつながること、また、自転車等の機材が高価であることが入部や部活動に対する満足度を高めることのネックになっていることなどが明らかになった。

このことをふまえて、今後の部活動を活性化していくためには、第一に部活動に対する満足度を高めるためには少しでも上位の大会を経験させること、つまりは、実績を残せるような競技力をつけてやる必要がある。第二には部活動を通して社会人としての礼儀を身につけさせたり、競技を通して仲間作りをサポートするなど、精神面での成長を促してやる必要がある。その結果として、新入部員の増加や競技人口の増加につながっていくと考えられる。しかし、自転車等の機材が高価であることは今後も変わらないと思われ、機材面でのサポートを部や学校・競技連盟としてどのようにしていくのかということが大きな課題である。

部活動を活性化させる手だてとしては、すぐに効果が現れるような策はなく、地道に競技力を向上させ、それを通して精神面での成長の手助けとなるような指導を継続していくしかないという、至極当たり前の結論しか出てこない。今後は、OB会やクラブ後援会など外部の団体からのサポートを得ながら、競技力の向上・人間的な成長につながるような部活動の指導を継続していきたい。